

第 3 期岩倉市地域福祉計画 令和6年度進捗評価シート

基本目標	3 包括的な支援に向けた体制づくり
施策	(1) 支え合いのネットワークの強化

<現状と課題>

・本市の地域福祉計画は、これまで住民同士の連携を図り、主体的な活動を展開する「住民活動計画」として推進してきました。計画に基づき設置した「いわくら福祉市民会議」では、地域の活動者が連携しながら地域で必要な取組を検討・実行してきました。 ・また、本市では専門職同士の「顔の見える連携」を目的とした交流会を定期的に開催し、お互いの業務の理解や課題を共有する場、学習機会として機能しています。顔の見える関係をつくり、コミュニケーションを図ることは、その後の円滑な連携にもつながることから、今後も継続して開催し、専門職同士の連携を促進していきます。 ・市民の地域生活課題は多種多様であり、一つの分野のみで解決できない場合も多くあります。包括的な支援体制の整備に向けて、地域住民等との連携、専門職同士の連携、関係機関・関係各課との連携など、多分野にまたがって総合的に対応できるネットワークづくりが重要です。
--

単位施策:24 専門職同士や組織間での連携強化

・関係者間で連携してスムーズな課題解決ができるよう、福祉専門職間で顔の見える関係性を構築するための「顔の見える連携交流会」を定期的に開催します。また、庁内連携会議の開催を通じ、福祉分野に限らず、福祉以外の分野(まちおこし、商工、防犯・防災、教育等)の庁内各課、関係機関との連携を強化し、市民の生活課題に総合的に対応できる体制を整備します。

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
顔の見える連携交流会の開催回数	2回	4回	4回					4回	年度当初に年間顔の見える連携交流会の年間スケジュールを案内し、交流会 3 回、研修会 1 回を実施し、多分野の専門職間の連携のきっかけづくりの場を提供することができた。 重層的支援体制整備事業の制度理解を図った。	福祉課 社会福祉協議会

事業		取組内容及び成果	課題及び今後の方向性
●顔の見える連携交流会の開催	福祉課、長寿介護課、社会福祉協議会	参加者の業務内容紹介と交流を中心に 1 回、事例検討会に関してをテーマに 1 回、複合課題のつなぎ方をテーマに 1 回、事業所単独での支援が難しい世帯についてをテーマに研修会 1 回の合計 4 回実施し、延べ 166 人の専門職が参加し顔の見える関係性を構築するため交流と意見交換を行った。 重層的支援体制整備事業のうち包括的相談と多機関協働の必要性と岩倉市で具体的にどのように運用しているかを中心に理解を促進した。	重層的支援体制整備事業の実施にあわせて、具体的に多機関が連携していくための仕組みとなるよう実施内容を検討して実施していく。 今後も交流会に参加し、関わりの少ない事業者とも交流することで、円滑な支援体制の構築や制度のはざまでの課題の対応などにつなげていく。

●庁内連携会議の開催	福祉課	地域生活課題に関する関係課と庁内連携会議を1回行い、地域生活課題に住民と協働で取り組む仕組の目的や圏域等についての情報共有と意見交換を行った。また、消費生活担当課より消費者被害の最新状況等に関する情報提供がされた。	引き続き、包括的な支援体制の整備に向けて他分野にまたがって総合的に対応できるネットワーク強化に努める。
●その他			
単位施策:25 地域での生活支援体制の整備			
・地域自立支援協議会や地域ケア会議を通じ、多職種協働による個別事例の検討、地域のネットワーク構築、地域課題の把握等を推進します。また、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的として、「生活支援推進ネットワーク会議」を設置するとともに、生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「生活支援コーディネーター」の活動を促進します。			
事業		取組内容及び成果	課題及び今後の方向性
●地域自立支援協議会の開催	福祉課	地域自立支援協議会本会議を2回開催し、障がい福祉計画及び障がい児福祉計画の進捗管理と次期計画策定の意見聴取を行った。部会活動については、相談支援部会では事例検討会、地域共生部会では事業所交流会、子ども部会では障がい児虐待防止研修、発達障がいに関する講演会を行った。	引き続き、地域自立支援協議会本会議及び部会活動を行い、地域における障がい者・児支援の課題やニーズ等について調査や課題解決に向けた取組を行う。
●地域ケア会議の開催	長寿介護課	令和6年度は自立支援型の地域ケア会議を2回開催し、多職種協働による個別事例の検討から高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制を検討したほか、地域のネットワーク構築、地域課題の把握に努めた。	高齢者の自立支援に必要な生活支援・介護予防サービスを把握するためには、多くの事例が検討する必要があるため、今後も継続して開催していく。
●協議体の運営	長寿介護課	生活支援等サービスの体制整備に向けて、生活支援コーディネーターと生活支援等サービスの提供主体等が参画し、情報共有及び連携強化のため、市全域を対象とした第1層協議体として生活支援推進ネットワーク会議1回開催した。	市全域でなく、より小さな地域単位を対象とする第2層協議体を担える人材の発掘に努めていく。
●生活支援コーディネーターによる情報共有、連携強化	長寿介護課、社会福祉協議会	地域ケア会議および顔の見える連携交流会等に参加し、生活支援・介護予防サービスの提供状態及び課題を把握するとともに事業所間の連携を図った。	地域の資源を把握し、支援が必要な住民地域資源などのサービスにつなげていく。 高齢者・子ども・障害者・生活困

					地域福祉計画推進事業とともに地域アセスメントの情報整理や地域ケア会議、協議体に参加し、サロン活動やボランティア活動などの地域資源について情報提供を行った。	窮など多分野との一体的な地域づくり支援の検討を進める。
●その他						
事務局評価	取組 2	指標 I	評価 A	評価理由	顔の見える連携交流会の開催回数が目標に達する等、専門職と庁内関係課の連携強化が順調に進められている。地域での生活支援体制の整備についても、社会福祉協議会、市内サービス事業所と連携して取組が進められている。	
推進委員評価	A			推進委員評価 判断理由・コメント	顔の見える連携交流会が目標どおり実施できており、多機関が連携して支援に取り組んでいく体制づくりが進められている。自立支援協議会、地域ケア会議、協議体の運営などが順調に取り組まれていることから、今後さらに推進してほしい。	